

赤野井湾における真珠母貝生産の拠点化に向けた実証試験

草野充・井戸本純一

1. 目的

滋賀県内の淡水真珠養殖業を振興する上では、真珠母貝の生産量を増やすことが必要であるとともに、環境変化等に対する危機管理上、複数の水域において母貝の生産拠点を設けることが重要である。そこで、近年漁場環境が改善している赤野井湾において、事業規模での実証試験を行い、母貝生産拠点としての機能評価を行った。

2. 方法

平成 28 年 11 月 2 日、7 日に赤野井湾内の 2 か所の漁場(図 1)において、それぞれ 5000 個ずつ稚貝(0 歳貝)を垂下した。垂下には砂を入れたバットを使用し、1 バットあたり稚貝を 100~200 個収容した。母貝の飼育管理は漁業者に委託し、成長に応じて垂下ネットに収容した。

稚貝の成長と生残の調査は、平成 29 年 7 月 26 日、9 月 20 日、11 月 22 日、平成 30 年 3 月 28 日に行った。毎回の調査ごとにバットとネットの数が変わるため、それぞれの垂下数を確認し、それに応じた割合でバットとネットを取り上げて全体の代表値とした。取り上げた容器内の母貝は、洗浄した後に工作版に広げて写真撮影し、後日画像データをもとに個体数と殻長の測定を行って成長量と生残率を求めた。

3. 結果

1 回の調査における測定母貝数は、それぞれの漁場で 138~393 個体であった。

稚貝の成長は両漁場ともに同様の傾向を示し、16 か月後の平成 30 年 3 月には垂下当初と比べて 50~60mm の成長量を示した(図 2)。また、収容後の生残率は平成 30 年 3 月時点で 8 号では 60%、10 号では 75%であった(図 3)。

真珠生産には 3 歳以上の母貝を用いることから、引き続きこれらの成長、生残をモニタリングする必要がある。

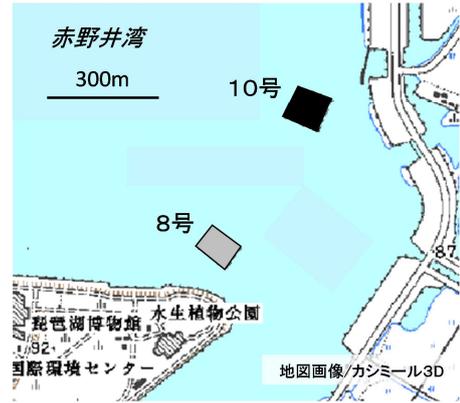


図1 実証試験を行った漁場(8号、10号)

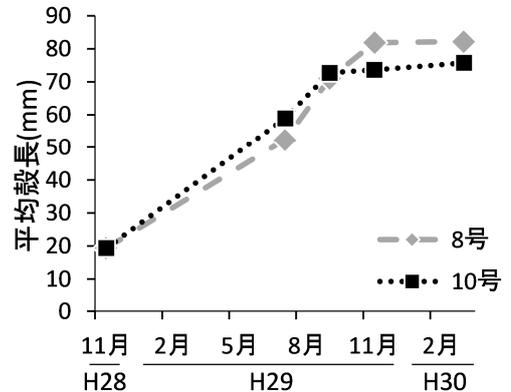


図2 各漁場における平均殻長の推移

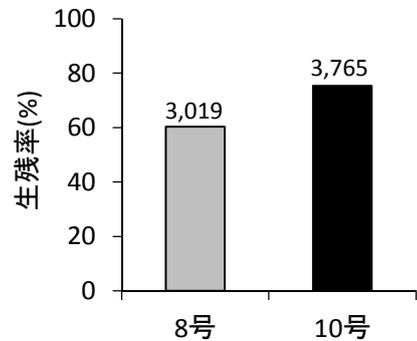


図3 平成30年3月における生残率(数字は推定生貝数)